



To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2011年5月 No.348
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2010~2011)	
センテニアルクラブ会長	：『創造と協同、みんなの願いを前へ』
東京セントラルクラブ会長	：『ひとつとなって YMCAへ』
国際会長	：『明日への橋を架けよう』
アジア地域会長	：『心新たに立ち上がろう』
西日本区理事	：『飛翔たとう ワイズスプリットを胸に』
中西部部長	：『豊かに、そして拡がりのあるワイズライフを !!』

クラブ役員	Officers
会 長	： 新保 正秋
副会長	： 谷川 寛
書 記	： 石津 雅人
会 計	： 藤原 正巳
メネット会長	： 山中 ちあき
Y連絡職員	： 鍛治田 千文

Biblical Message of May

May Club Meeting

『 LT(リーダーシップ・トレーニング) 』

5月第1例会

あなたがたの命であるキリストが現れるとき、
 あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて
 現れるでしょう。

(コロサイの信徒への手紙 3章4節)

日時：2011年5月18日(水) 18:30~20:30
 場所：ホテルグランヴィア大阪 21階

司会：岡本 剛介 君

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1.開会点鐘 | 新保 正秋 会長 |
| 2.ワイズソング | 一 同 |
| 3.聖句朗読 | 山村 利子 君 |
| 4.ゲスト・ビジター紹介 | 新保 正秋 会長 |
| 5.今月の強調活動 | 石津 雅人 君 |
| 6.晩餐 | 一 同 |
| 7.卓話「森を育てる学校」 | 奈良県立吉野高校森林科学科教諭 松下 征悟 君 |
| 8.連絡・報告・ニュース | 各メンバーから |
| 9.誕生祝い・ニコニコ献金 | 一 同 |
| 10.閉会点鐘 | 新保 正秋 会長 |

5月第2例会(キックオフ)

日時：2011年5月14日(水) 13:00~16:00
 場所：YMCA六甲研修センター

集合：正午(昼食：定食1,200円)

会費：1,500円

バス利用の場合は、11:00阪急六甲駅集合
 発表者は、30部資料を用意。

ロースターを持参。

17:00~二次会(吉弥さんバイト・ピザ屋)

5月のお誕生日 隅田保メン(3日)

震災時の通信手段について

阪神大震災時より今回の東北大震災ではネットの普及により、通信手段が増えたことで、緊急時における個々人の情報収集力は格段に進化しました。それによって災害の状況がリアルタイムに伝わることの素晴らしさを感じる事ができました。一方で、デマメールなどの弊害を考慮する必要が新たに増えました。

携帯電話回線については、NTTドコモやソフトバンクといったキャリアによっての差異はあったものの、概ね"BUSY"状態になっており、災害時の機能が問題視されました。ネット系はどうかというとツイッター、facebook、mixiなどのソーシャルネットワークと呼ばれる類いは通常通り利用できしており、東京以東の友人の安否確認に役立ちました。その効果もあり、3月11日の震災以降のソーシャルネットワーク各社の登録数は前月比約125%もの伸び率になったとのこと。(3月-4月の単月実績で!!)とはいえ、ツイッターでは実名登録が必須ではないため、本人であることの信憑性に疑問が残ります。

上記を踏まえて、私の周りでは情報収集はツイッターで行い、安否確認はfacebookでと、使い分けをし、情報整理をしていたとか。改めて時代に合った通信手段は何か?多数ある情報収集手段をどのように活用するか?を取捨選択していく必要があります。来るであろうその時に備えて事前に準備しておくべきと改めて考えさせられました。

高橋 裕也

(次回は三浦直之さんです。)

【クラブ統計 Statistics】

2011年4月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 22名	メ ン	16名	10名	4月	0円
例会出席 18名	メネット	8名	0名	現 金	115g
うちメーカー	ビジター	2名	0名	切 手	0円
0名	ゲ ス ト	1名	0名	現 金	7,852g
出席率 81.8%	合 計	27名	10名		500円
					4月: 107,100円は震災寄付へ
					累 計: 177,809円

4月第2例会

と き：4月23日(水) 18:30~20:30
 ところ：大阪YMCA土佐堀会館406号
 出席者：新保、山田、谷川、松浦、山中、鍛治田、
 坂本、三浦、大村、石津、中村茂(11名)

1. 四月第一例会の反省
 - ・卓話の話が少し長かった。
 - ・聖句のコメントで福永さんから訂正の指摘があった。
 - ・ニコニコ献金を東日本大震災救援募金としたが、少なかった。事前に全員に確認すべきであった。第2例会時に募金2件で、10万円を超えた。
2. 中西部合同新年会(2012年1月14日<土>)担当：松浦
 - ・14:00~17:00ホテルグランヴィア大阪20階
 - ・150人予定
 - ・1部セレモニー ・2部=東住吉高校芸能文化科
3. 今後の卓話
 - ・6月 源氏物語を読む楽しみ 福嶋昭治さん
(園田学園女子大)
4. 内規について
 - ・慶弔=金婚のお祝いはずす。
 - ・役員の選出=役員会で選出する。
 - ・内規の改正=役員会で議決、例会(総会)で承認
5. 今後の予定
 - 5/21(土)土佐堀クラブ「トーク&ライブ」土佐堀会館2階
60周年記念を急ぎよ、大震災救援事業に変更。
 - 5/28(土)YMCA創立記念礼拝、会員大会
 - 6/11(土)12日(日)西日本区大会
(ウエスティン都ホテル京都)
 - 8/5(金)7日(日)アジア大会(台湾・宜蘭)
(新保 正秋)

今、東日本大震災のため、住まいを失った人々、離散させられた人々、天に召された人々を憐れみ、すべての人々に、神の愛が注がれますように、まことの幸いに導き帰してください。

聖句選/コメント：山村 利子

(次回は、大村肇さんです)

4月第1例会

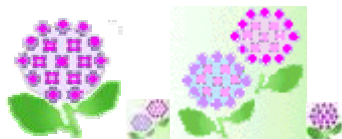
と き：4月20日(水) 18:30~21:00
 ところ：ホテル グランヴィア大阪 21階

震災被害の東北にも桜の花が咲き、被災者の心をなごませ、少し世間も落ち着いた様子の4月例会は、ゲストを含め27名が参集し開催されました。本日のメインプログラムは、来年1月、わがクラブがホストする中西部合同新年会にも出演する予定の大阪府立東住吉高校芸能文化科の三上和久校長と久下英孝学科長を迎えての卓話。「若者のトレンド~ 芸能文化科」と題し、お二人から活動内容をお話いただきました。



全国で唯一つという、芸能文化科は、能楽、歌舞伎、文楽などを中心にした古典芸能と、落語、漫才、テレビ芸能を中心にした現代の演芸文化を扱ってきたという。学科の全授業のうち2/3が一般教科で、1/3が専門授業で、「演劇」「放送映像」「伝統芸能」の3つの領域を学ぶそうです。毎年40人を募集。通えることが条件で、滋賀、和歌山から遠く他府県からも通学しているようです。授業内容はユニークで、写真を3枚使って「富士山に行った」ことを表現させるなど、生徒が興味を持って取り組める課題づくりも。アニメのオフレコで口の動きに合わせて声を出すことのむずかしさや、舞台上で3台のカメラを使った撮影の仕方、パソコンで編集、プロモーションビデオの制作など、プロも顔負けの内容です。しかし、芸能人を育てる学科ではなく、人間性豊かな人材を育てることが趣旨だということにも感銘を受けました。

今回のニコニコ献金は、東日本大震災の救援募金として集められ、85,100円が寄せられました。(中村 茂高)



YMCAニュース

創立記念礼拝

日 時 5月28日(土) 13:30~14:15
 場 所 大阪YMCA会館チャペル

会員大会

日 時 5月28日(土) 14:30~16:00
 場 所 大阪YMCA会館903号室

内 容

- ・報告/・2010事業報告・会計報告、2011事業計画・予算
- ・議事/・2011方針・年間聖句・年間讃美歌・常議員選出
- ・表彰/「奉仕の書」・継続会員表彰・新維持会員紹介
 > 地域YMCAの働きとして、商店街の看板作りの表コミの取組を説明させていただきます。

(鍛治田 千文)

4月BF報告

山田(50g)、隅田(30g)、福永(25g)
 新保(10g)

計115g



大阪YMCAの震災被災地支援活動について

この1カ月あまり全国のYMCAは被災された人々の救援・復興のため、同盟内に災害支援本部を立ち上げ、被災地にあるYMCAを通じた緊急支援活動及び募金活動を全国で展開してきました。また、ネットワークを通して、多くの支援の申し出や祈りと応援のメッセージが国内外より寄せられています。

大阪YMCAは中長期にわたる支援を視野に入れ、被災地のYMCAをはじめ、全国のYMCAと共に災害の際に弱者となる方々のために、できることにとりくんでいきます。

支援活動について

1. 募金活動：各Yの街頭募金、それ以外も各ワイズメンズクラブ、グループ、個人等から約450万円の募金がなされています。これらの募金は大阪YMCA - 日本YMCA同盟を通して現地YMCAを通じた復興支援活動に用いられます。土佐堀Yでは3月に3日間実施し、60万強の募金が寄せられました。

2. 被災地支援活動：現在、仙台YMCAと盛岡YMCAを通じた復興支援活動が行われています。

被災直後に、仙台YMCA内に社会福祉協議会と協働して仙台YMCAボランティア支援センターを立ち上げました。4月も引き続き、仙台市周辺の支援活動を継続しています。4月末まで大阪Yが調整役となり、中日本地区YMCA（大阪Y、神戸Y、京都Y、名古屋Yなど）からボランティアコーディネイト役のスタッフを派遣し、現地の災害ボランティアセンターなどと協力しています。

3. 今後、大阪YMCAは下記のような支援活動の可能性を探り、各地域YMCAで考えられているプログラムと共に中長期的な視点も合わせて実施を検討します。

1) 関西地域に避難してきている家族、子どもたちへの支援
各プログラムへの受け入れ（奨学金を生かして）
夏期キャンプへの受け入れ（支援金を生かして）

2) 障がいのある青少年への支援
聴覚障がい児者への支援（夏期キャンプ招待）
発達障がい児への支援（夏期キャンプ招待）等

4. 海外YMCAまた関係団体からの支援

海外の多くのYMCAからの支援は、現在も継続されています。被災にあったNZ、ハイチ、東南アジアのYMCAからも支援をいただき現地の活動に活用されています。また、多くの関係団体（海外日本人会など）からもYMCAの活動を通して支援の申し出があります。

5. ワイズメンズクラブ、国内団体からの支援

ワイズメンズクラブからは、第一弾の緊急支援物資の集積、搬入、継続的支援金送付などによる活動支援に加えて緊急街頭募金、第二次、第三次の街頭募金並びに各例会での活動など様々な特長のある活動で支援をいただいています。現地の大きな支えとなっています。

(鍛冶田 千文)



街頭募金の様子



Club Activities (April ,2011)

On April 20, the club's April meeting was held at Hotel Granvia Osaka with a total of 27 Y's men, Y's menettes, Y's comet, and guests in attendance.

With its emphasis on "YMCA Service and ASF" this month, Y's man NAOYUKI MIURA briefed the purposes and meanings of these programs.

The highlight of the April meeting was the speeches made by Mr. KAZUHISA MIKAMI, principal of Osaka Municipal Higashi Sumiyoshi High School and Mr. HIDETAKA KUGE, director of the course of Public Entertainment and Traditional Culture of the high school

Mr. KAZUHISA MIKAMI outlined the fundamental principle of the education of his high school and then Mr. HIDETAKA KUGE introduced curriculums and the activities of his unique Course, the only one such course available in Japan.

He stressed that this course was established in 1993 to preserve and develop the Japanese traditional culture and to master skills of the theatrical performance and image broadcasting, not to train professional entertainers.

Showing the numbers of the interesting video films, Mr. KUGE zealously told us the learning activities and good results attained at his Course.

Yen 85,100 was collected for the club's Niko-Niko (smiling) fund which will be donated to the OSAKA YMCA for supporting those children suffering from the Great Eastern Japan Earthquake and Tsunami Disaster.



ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

ゲストからのメッセージ

初めてセンテニアルクラブの例会に参加しました。大阪の街を眺めながらの例会会場は羨ましい限りです。“芸能文化科”のある高校の存在、初めて知りました。5月21日YMCA会館でお目にかかりましょう。(大阪土佐堀クラブ 岩田 晋)

会員からのメッセージ

芸能文化科のお話、興味深く聴かせて頂きました。若い時に人生の方向性を見つけ出せる生徒は幸せだと思います。

(石津 雅人)

高校は問題を解くことを学ぶ場でありましたが芸能文化科は相手に上手に何かを伝えることを学べる場だと思いました。これを学んだ生徒は豊かな人間性が育つことだろうと思いました。

(岡本 剛介)

芸能の世界の舞台裏、奥深さが良くわかり非常に興味深くお話を聞かせて頂きました。

(大畑 慎治)

卓話の中で絵を使って授業の再現をしてもらいとても興味深かったです。

(大畑 都子)

今日も楽しいセンテニアルメネットの話に華が咲きました。

(坂本 千春)

皆で6月の西日本区大会に参加しましょう！まだ参加申し込みできます。西日本区事務局員の坂本でした。

(坂本 哲朗)

毎月新鮮な体験をさせて頂いて感謝です。クラブに少しはお役に立てる様にして頂いて参加しています。今後共よろしくご指導の程をお願いいたします。

(芝田 光雄)

学校で言えば一学期のはじめの四月、最初の例会を持てました。東住吉高校の紹介があり来年1月の中西部新年会が楽しみです。東日本大震災の復興はこれからです。豊学校で言えば福島豊学校は入学式もまだです。

(新保 正秋)

先日テレビで「城特集」を観ました。先月卓話に来て下さった高森さんのお話を思い出しながら“城ガール”もおもしろそう、まず12天主からアタックと思っています。

(隅田 恵子)

東住吉高校のオリジナリティある取り組みに感銘いたしました。

(高橋 裕也)

ああ、50年若かったら、長唄三味線を！

(中村 幸枝)

出席する度に窓の外の景色が変わっている目まぐるしい世の中です。今日は高校に芸能文化科があるめずらしいお話で面白く聞きました。今どきの子供達の様子が少し分りよかったです。上月英子先輩にはご繁忙中今年も“お年玉切手”を沢山頂きました。感謝です。

(福永 嘉彦・滋子)

会場一杯の会をメネット、ゲストと共に4月例会を迎えられたことを喜んでおります。ユニークな学科を有する東住吉高校の話、日頃あまり馴染みのない高等学校教育の現場の状況につき大変興味深く聞かせて頂きました。東日本大震災の被害者の皆様の実情を見るにつけ自分が何ができるのかを毎日考えています。その第一歩として友人と共にささやかな寄付をさせて頂きました。

(藤原 正巳)

三上校長、久下学科長有難うございました。来年の中西部新年会、期待しております。

(松浦 孝次)

芸能文化科のお話、初めて聞きました。いろんな事が勉強できて楽しそうだなと思いました。ありがとうございました。

(松浦 和子)

本日は大阪府立東住吉高等学校の三上校長、芸能文化科久下学科長の特別な卓話を聞いて、有難うございます。資料、行事予定で3年歌舞伎鑑賞や劇団四季へ10代の多感な時期より参加できる学校があることに驚きました。ありがとうございました。

(松田 明久)

大阪府立東住吉高等学校、校長先生、学科長先生お話しありがとうございました。ユニークな教育内容で大変興味を持ちました。震災のニュースを聞く中ホットする一時でした。

(三浦 直之)

あの地震の時から随分時間が経過しました。それでも毎日のテレビで見る現地の景色は始めの頃と殆んど変わらず荒廃したものです。そんな中で現地の人々の顔は随分生き生きとした姿に見えます。人間の生きる力の深さを感じている昨今です。

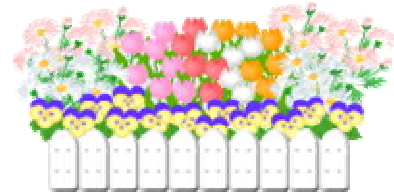
(山田 孝彦)

東住吉高校、ユニークなカリキュラム運営に感心しました。学校も企業も特長あるアイデンティティがなければ生き残れない。Ysマン活動もしかり時代のニーズを先取りして新風を吹かせましょう。

(山中 秀男)

楽しい芸能文化科のお話、ありがとうございました。さくらの季節で東日本大震災の方々にも早く見れますように、お祈りします。

(山村 利子)



後記

3月11日の東日本大震災が発生以来、たくさんの善意の救援募金の業務に追われた日々から、ようやく解放され、正常に戻りつつあります。

この震災と16年前の阪神大震災の発生時間が、共に46分という数字の符合の不気味さにも、背筋に何か寒いものを感じさせます。地震発生に伴い、被災地では暗闇のどん底に突き落とされ、私たちの築いてきた文明がいかに脆弱な基盤の上に立ったものか、あるいは脆いものであるかを思い知らされた一大事でもありました。

4/29、阪大で、「震災のいまとこれから」私たちに何ができるのか？という緊急シンポジウムが開催され、私も聴講しました。定員180人に300人以上の参加者が集まるという、一般の関心の高さに急きょモニタールームが用意されました。各専門分野から、1部は地震と津波のメカニズムや原発の現状を、2部は災害ボランティアの活動と都市の再生など、4時間という長時間でしたが、まとまった話を聴くことができました。

冒頭の挨拶で、災害が発生すると、「停電になり、水道がストップし、交通マヒが起きる」。自宅から何時間もかけて仕事に出かけ、水をすくって飲める川が近くになく、停電で何もできない社会が、本当に私たちが望む社会なのかという言葉に考えさせられました。また、局地的な災害が、さまざまに関連し合い、近隣都市ばかりでなく、日本中、いや世界全体に影響を受けてしまう私たちの社会であることも認識しました。

会場にはほとんど年配の人たちであふれ返っていましたが、その中で、壇上に居並ぶ教授連に向かって、「この日本に原子力は必要ですか」「高校生でも、何かできることはありますか」と勇気ある発言をした高校生がいたことには、いたく感銘しました。この国の若い人たちがきっと日本を変えていくに違いないと、少し愉快的気持ちになりました。

(中村 茂高)